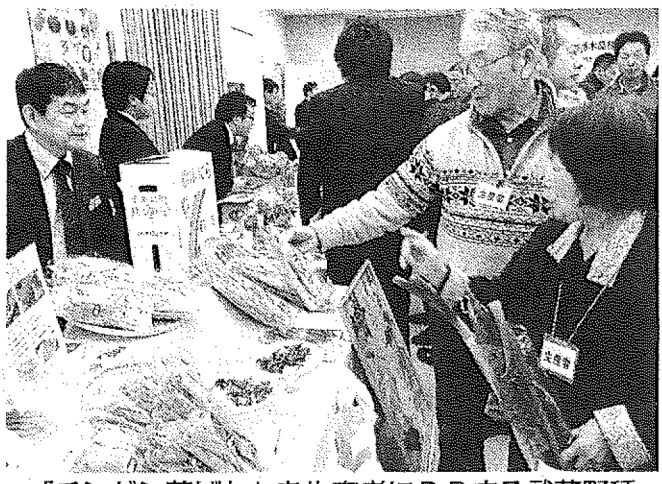
お薦め新品種ずらり

青果育種研究会が見本市



「チンゲン菜ばな」を生産者にＰＲする武蔵野種苗園のブース（14日、宇都宮市で）

卸売会社、種苗メーカーなどでつくる「青果育種研究会」は14日、宇都宮市の宇都宮市中央卸売市場で「品種見本市」を開いた。業務加工用を意識した多収性品種の他、需要が高まるイタリア料理向けなどの新規野菜の提案も目立った。2月の大雪で施設被害を受けた農家向けに、露地品種を提案する種苗メーカーも複数あった。

武蔵野種苗園は、アブラナ科のチンゲンサイをとう立ちさせた新規野菜「チンゲン菜ばな」を紹介。「青臭さやえぐ味がなく、子どもでも食べやすい」と農家や卸売会社のせり人などに導入を勧めた。

また、別の会社は厳寒期でも大玉生産が可能なレタス品種、耐病性と食味を兼ね備えたトマト品種をアピールした。

大雪被害を受けた産地向けに「雪害対策品目」を提案する種苗メーカーもあった。タキイ種苗は15品目分の作業スケジュールや粗収益などを記した一覧表を配布。サカタのタネの担当者は、需要が高くて作りやすい品目としてスナップエンドウやオクラなど11品目を紹介した。

日本農業新聞
平成26年3月15日付